

産後 2 週や 1 か月時のメンタルヘルスの不調の一因として、EPDS の構成概念別の解析から、不安 (Anxiety) があることや、負荷が過剰にかかっていること (Inability to cope) が強く影響していることがうかがわれた。また、WHO-5 の項目別の解析から、その時期には睡眠不足感、まとまった睡眠がとれないことによる疲労感が影響している可能性が示唆された。こうした知見は、産後のメンタルヘルス不調で苦しむ女性に対するケア・サポートのあり方を検討する上で有用だと考えられる。

妊娠期における EPDS の実施が有用である可能性が示されたことも、本研究の一つの成果だと考えられる。妊娠期に EPDS を実施することは、妊娠期のメンタルヘルスの実態把握につながる。それに加え、産後の女性のメンタルヘルスの状況やこれまでの経過を検討する上で、重要な資料になることが示された。昨年度に実施した感度分析では、十分な感度が示されなかったため、産後の EPDS を良い精度で予測することまでは実証できなかったが、産後の EPDS との強い関連(調整後オッズ比)が示された。これまでも、妊娠前の精神科既往歴は、産後うつリスク因子として広く知られ、産後うつに関連した研究では調整変数や背景因子として、常に注目されてきた。妊娠期の EPDS もそうした調整変数や背景因子として重要な位置付けになる可能性が示されたと言える。今後の産後うつの実態を解明していく上で、妊娠期の EPDS もより考慮される必要があると考えられる。

E. 結論

本研究では、産前・産後のメンタルヘルスの実態把握に資する疫学データが収集された。そのデータに基づいて、わが国における EPDS の使用方法などの知見が示された。今後、更なる解析の実施が望まれる。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

竹原健二ほか. わが国の妊産婦における妊娠 20 週から産後 3 か月までの産前・産後うつの割合とその推移. 第 73 回日本公衆衛生学会総会抄録集 2014;286.

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

